

仕事と生活の調和推進の調査研究（令和元年度実施中）

資料 1 - 2

（令和元年度予算額 6,420千円）

目的

家事・育児・介護等の生活が、個人の働き方や生き方へどのように影響しているかの意識調査

調査の概要

家事・育児・介護に伴う生活の変化が、働き方や生き方にどのようなプラス/マイナスの影響を与えたと感じているかを、個人へのアンケートによって把握

調査の詳細

◎家事・育児・介護の生活変化が、プラス・マイナスの影響を与える(た)要素を環境別に確認

【個人の意識】 固定的な役割分担意識

【家庭環境】 配偶者・パートナーとの関係や役割分担

【職場・社会環境】 両立推進の制度・取組・雰囲気/外部サービスの活用有無と第三者の関与等

◎調査結果公表時期: 令和元年度末

◎育児調査対象: 女性有業率の上位5県/下位5県(★)居住の女性保護者1,000人/男性保護者500人

◎介護調査対象: 介護者有業率の上位5県/下位5県居住の介護者男女500人

(育児は末子の年齢別、介護は自身の年齢別に、それぞれが直面する課題・成功要因を下記区分別に整理)

★H29年就業状況基本調査

No	調査区分	調査目的と質問事項(抜粋)
1	WLBに関する意識	※それぞれの実情を確認し、年代別、地域別、就業状況別、性別役割分業の意識別にクロス集計を行う。 (質問項目) ・育児や介護に影響を与えている要素 ・家事に費やす時間の変化 ・育児・介護に関する配偶者やパートナーとの話し合い状況
2	意識の背景となる事実の把握	※働き方や生活環境別に、休業(休暇)取得前に感じていた不安と、休業(休暇)取得後に解消された不安事項を把握し、不安視されがちな事項と真に解消すべき課題を休暇取得前後の意識差を比較する。 (質問項目) ・週あたりの実労働時間 ・勤務先の取組・勤務形態・休暇制度 ・心のよりどころとなる相手、相談相手の有無 ・仕事のやりがい/キャリア意識
3	意識と現実の乖離の確認	※家事・育児・介護と仕事の両立を続ける上で、個人がどのタイミングでどのような障壁に直面するか、その経過を把握しつつ、その障壁について、性別・年代別により異なる点を確認する。 (質問項目) ・仕事を続けたいと思っていたにもかかわらず、退職した理由 ・退職したい/せざるを得ないと思っていたにもかかわらず、仕事を続けた理由